1月8日

石で札割り 元気な年に 新春の伝統行事「まじゃらこ」

地域の厄除けや無病息災、五穀豊穣を願う新春の伝統行事「まじゃらこ（魔蛇羅講）」が、安土町西老蘇の鎌若宮神社で行われました。

同神社の参道に取り付けられた勧請縄（かんじょうなわ）に、「天下泰平」と書かれた絵馬風の木札を取り付け、子どもたちが木札をめがけて順番に石を投げつけます。木札を割った子どもは、1年を元気に過ごすことができるといわれています。

この日は、地域の子どもたち約70人が挑戦。見事木札を割った老蘇小2年の谷口湊音くんは「当たると思っていなかったのでうれしい。楽しい1年にしたいです」と喜んでいました。

1月5日・9日

近江八幡の防災へ決意新たに 新春恒例の消防出初式が開催

東近江地域の2市3町を管轄する東近江行政組合消防本部が5日、近江八幡消防署で出初式を行い、102人の消防職員が参加しました。ドローンを用いた救助者の発見や、はしご車など10台の消防車両を出動させた事故車両からのけが人の救出を行い、救助隊員らが高層階からの負傷者の救出・消火活動を本番さながらに披露しました。

9日は本市・竜王町の消防団でつくる（財）滋賀県消防協会八幡支部による出初式が市文化会館で行われました。消防団員や近江八幡消防署員、来賓など約350人が参加し、文化会館前の官庁街通りで、消防車両16台による防火パレードが行われました。

それぞれの参加者は、気持ち新たに新年の防災を誓いました。

12月22日

近江八幡おはなし研究会が 野間読書推進賞を受賞

（公社）読書推進運動協議会による「第52回野間読書推進賞」の団体の部で、市内で活動する近江八幡おはなし研究会が受賞しました。同会は昭和36年に、「子どもたちにお話の世界をもっと楽しんでほしい」「子どもの読書の大切さを皆さんに知ってほしい」との願いから、読み聞かせを中心に絵本や児童書の研究を始められました。以来、子どもたちに質の高いお話を届け、子どもたちに携わる人たちに向けた研修会など、啓発活動に取り組まれています。

同会の工藤雅子会長は「研究会の原点を大切にしながら、お話と子どもをつなぐ橋渡しとなる活動をこれからも続けていきたいです」と話していました。

12月19日

時豊建設・時遊木工が 子育て支援にと 手作り木工玩具を寄贈

池田町三丁目で時豊建設と時遊木工を営む青木時彦さん・綾子さん夫妻が、子育て支援の拠点施設など5か所に、手作りの木工玩具を寄贈しました。

建設業として木に携わるなかで、子どもたちが自然のものに触れる機会や、長い時間をかけて成長する木をSDGsの観点からも大切に使ってほしいと毎年寄贈を続け、今回で3回目。木馬や積み木などのおもちゃには、すべて無垢の国産木材から出た廃材を使用しています。

この日は、鷹飼町のアクア21内「はちはぴひろば」で贈呈式を開催。青木さん夫妻は「大切に育てられた木を使ったおもちゃで、子どもたちだけでなく保護者にも、ものや人を大切にする心を学んでもらえたら」と話していました。

赤こんリポート　馬場利男リポーター

いっしょに“ボッチャ”を体験してみようかい（会）♪

子どもを真ん中に、「だれもがホッとできる居場所」として取り組んでいる「かんちゃんホットルーム」の第65回交流会が12月17日、安土コミュニティセンターで開催。パラリンピックの正式種目「ボッチャ」を体験しました。

運営スタッフからの説明の後、民生委員・児童委員やホットルームのスタッフと一緒に、約30人の参加者がゲームを楽しみました。参加者からは「（目標に）うまく近づけられて楽しかった」「子どもから大人まで和気あいあいで、とても楽しかった」という声も。

これからも、このホッとできる居場所の活動が長く続き、地域の温かいつながりが広がっていくことを願っています。

赤こんリポート　松村美沙枝リポーター

「すべては誇るべき八幡の景観のため」 白鳥川周辺の定例整備活動

白鳥川の景観を良くする会さんは、白鳥川流域でポイ捨てごみの回収や桜並木づくりなどの環境整備を行っています。

17年前までは誰も通れないジャングルのようだった歩道。最終地点の整備が終われば、また最初の地点の整備が必要になるという、エンドレスで膨大な作業です。それでも「みんなが気軽に立ち寄り景色を楽しんでくれたら。その一心で活動を続けています」と事務局長の佐藤さんは話します。

この日も草刈り、ごみ拾い、倒れそうな桜の補強のほか、3月から始まる桜ぼんぼりの配線作業を行っていました。“当たり前じゃない”この景色。ぜひ目一杯楽しんでください！

赤こんリポート　今井良治リポーター

伊藤さんの「あきらめない心」にブラボー！

2022近江八幡市人権フェスティバルが12月11日、市文化会館で開催されました。

人権擁護のためのメッセージなどの入賞者表彰式、手話シンガーソングライターyokkoさんが作詞・作曲した2025滋賀国スポ・障スポのイメージソングビデオの放映に続いて、元パラリンピック水泳日本代表の伊藤真波さんが講演。20歳の時、看護学校への通学途上、交通事故に遭い右腕を切断したハンディを乗り越え、パラリンピックに2度出場し入賞を果たしました。看護師試験にも合格し、幼いころからの夢を実現したことなどを披露。

最後に特注の義手を付けて、バイオリンの美しい音色を響かせ、参加者から感動の拍手を浴びていました。

赤こんリポート　東恵子リポーター

笑顔が温かい　認知症カフェ

日曜の昼下り、にぎやかな笑い声が聴こえてきました。

船木町にある民家を改修したデイサービスでは、2019年から「認知症カフェ」を開催。利用者と参加者がレクリエーションやクラフトを一緒に楽しみ、みんなの居場所作りに一役買っています。

若年性認知症のご主人が通所していたという川村いく子さんは、ご主人が亡くなった今もボランティアを続けています。この日は、手作り羽子板大会で盛り上がりました。

スタッフの宮本敬子さんは「認知症になっても安心できる町になれば」と話していました。